

# 隼人族の森を渡る風

創造の現場から 第4回

森の彫刻家 上床利秋

## 美術におけるプロフェッショナルと アマチュアの違いは何だろう？

昨年十一月、自宅に第二十回松陽芸術祭に賛助出品を依頼する手紙が届きました。松陽高校美術科は第一回入学生を私が担任し、その創設には相当な労力を注いだものでした。あれから二十年以上の年月が経ちました。その懐かしい高校からの展覧会のお誘いには、旧職員という意味を超えて芸術活動に携わる鹿兒島の作家の一人として嬉しく、若い美術を志す高校生の励みになればという思いがこみ上げてくるのを感じました。

一月の展覧会搬入当日の朝、二メートルを超える高さの風神雷神の樹脂製彫刻を軽トラックに積み込んで、旧教え子に黎明館まで運んでもらいました。風神のほうはまだ割り出しという工程を経たばかりで未完成だったのですが、この状態を紹介するほうが、美術科の高校生たちにはいいと思ったのです。彼らがまたいつか別の場所

で完成形の組作品と出遭った時、きっと強く感じる何かがあるのではと考えたからです。

その日の午後、飾りつけ真最中の会場に私自身も駆けつけることができました。美術科主任の前村卓臣先生はすぐに私の意図を理解してくださっていたようでした。ある程度の配置が終わった段階で、高校生たち全員を私の作品の前に集めて作家紹介をしてくださいました。そうしてその場で突然子供たちの前で話をするように促されたのです。私はかつて担任していたころに生徒に語っていたことを思い出しました。作品についての制作意図を解説した後に、生徒たちに話しかけてみました。

「プロとアマの違いって何だと思えますか？」

「答えは人それぞれ違っていいんです。売れる作家だけがプロならば、ゴッホはプロじゃなかったことになるよね。モジリアニもそうです。」

「年齢なんて関係ない。自分はプロだぞと自覚して取り組み始めた時からプロなんだよ。高校生の君たちだって今からでもプロになれる。」

私の語った言葉の意味を、果たして何人の高校生が理解してくれたかわかりません。でも聴いてくれていたその場の雰囲気やサーッと引き締まったことを覚えています。生徒たちの目が素直に輝いていました。困惑した眼もありました。私自身まだまだ努力不足ですが、作品を前にして私が私である一瞬を強く感じた時でもありました。

日展会員 第一幼児教育短期大学 教授



雷神様降臨



軽トラックにて作品搬入



第二十回松陽芸術祭（会場：黎明館）